

応援賞は必ずとる！

平成五年 六年女児

「じゃ、応援団やりっで人。」私と同じ赤組の友達に、
「一緒にやってみねえ。」と言われ、やってみたくなり、
進んで立候ほした。何もかもがそれから始まった。

最初の応援団の集まりの時、まず自己しよ介をした。
応援団の人はみんな知り合いだったのでほっとした。

「優勝は無理でも、応援賞は必ず取りたいです。」と、自
己しよ介の時私は言った。応援団に入ったのだから優
勝より、絶対応援賞を取りたいという気持ちでいっぱい
だったからだ。

そこまではよかったのだが、その次に先生が言ったの
は
「みなさんの声がどれだけ出るか、テストしてみます。」
という、私にとってはとてもひさんな言葉だった。

ベランダに出て、
「フレールフレール赤組」と、できるだけの声でさけぶ。みんな

なの前でさけぶのは初めてだから、とても恥ずかしい。他
のみんなは、恥ずかしいながらもちゃんとやっていて、す
ぐ私の番が来てしまった。

「フレールフレール赤組。」とても緊張して声ふるえたけれ
ど、なんとかできたのでよかった。

二回目の集まりの時、応援のし方や、応援用のかえ歌な
どをきちんと決めた。声を出しているうちに、初めの緊張
感も全然なくなり、恥ずかしくもなくなった。

それから、中間休みや故課後を使って、毎日のように練
習が続いた。

全体での応援練習の時、他の組の応援の様子をちらっ
と見てみたら、どの組も迫力のある応援だった。特に黄組
の応援がそろっていてとても目立つ。それに比べて赤組
は、きちんと応援していない人までいる。こんなことでは
だめ。応援賞はもらえない。

「きちんと声を出して下さい。」と、つい口から出た言
葉に、みんなが反応し、大きな声を出してくれた。応援団
もみんなに負けないうようにいろいろ工夫して、やるべき

ことはみんなやった。あとは本番にかけるだけ。

そして、本番。

「今日で最後なので、思いっきり声を出して下さい。」と団長が言い、団長のエールから応援が始まった。

三、三、七拍子、「カのかざり」のエール、コンバットマーチ、「赤勝った」のかけ声、かえ歌、そしてエール。これらの応援をくり返し声がかれそうになるまでいっしょうけん命やった。

顔や手などにペンで「赤組優勝」「赤組必勝」などと書いて応援している人もたくさんいた。点数は負けているが、応援が一番じゃないかなと私は思っていた。

いよいよ、閉会式の結果発表。とてもドキドキした。

「優勝、白組。準優勝、青組。第三位、黄組。第四位、赤組。」と、教頭先生の発表があった。他の組の人はみんなそれぞれ喜んでた。赤組は最後だったが、がんばってやったのだからしょうがない。そして期待の応援賞は…、

「応援賞、赤組。」

「ワーっ。」赤組全員で大声をあげた。本当に応援賞が取

れたのだ。とてもうれしくてたまらなかった。今まで練習して来てよかったと思った。応援賞というのは、一つの組しかもらえないのだから、優勝するのと同じ位、取るのがおもしろいと思う。赤組が最後だから応援賞をもらったのではなく、応援をいっしょうけん命がんばって、その応援が一番だったからもらったのだ。本当にうれしかった。小学校最後の運動会。六年間の中で今年の運動会が一番最高だった。応援賞ももらったし、もう何も言うことがない。

この思い出は私の心にもいつまでも残るだろう。